

# ふくし だより

第18号

平成23年12月1日

発行 根石学区福祉委員会

委員長 山口 功 克

監修 才 藤 清 治

編集 近 藤 時 子

## 視察研修に行きました

10月11日爽やかな秋晴れの中、根石学区福祉委員は長久手町にある、特別養護老人ホーム等各施設のある『愛知たいようの杜 ゴジカラ村』の視察と北名古屋市にある『回想法センター』で認知症の回想法を体験しました。



\*\*\*\*\* ゴジカラ村を訪ねて

南小呂町 下松 久仁子\*\*\*\*\*

福祉委員となり今まで無縁とも言える老人ホームを訪れました。私の中の老人ホームといえばテレビドラマ等で観る見晴らしの良い現代的な建物に、入居者も介護の方も手遊びや折り紙楽しく歌ったり散歩したりして賑やかな所と言うものでした。しかしゴジカラ村を見学させていただき『果たして、ここにいて楽しいのだろうか？』と言う疑問を持ったのが正直な気持ちでした。でも施設の方の説明を聞くにつれ、自分の考えがいかにテレビ等で創られた映像に影響され偏っていたのかと思い知らされました。『時間の流れるまま、自然のサイクルにに従って暮らすことこそ人間が生きる本来の姿。』このような空間を初めて体験しました。広い通路や先が見えない曲がった廊下、車いすの方でも見やすい窓の高さなど建物の中に居るのに自然の中にいるような錯覚をおこしてしまいそうな施設でした。今回の施設研修を機に福祉や介護にもっと向き合い生きることについて考えていきたいと思います。

~~~~~ 回想法センターを訪ねて 小呂町 香村 久美子~~~~~

北名古屋市のふれあい事業としての回想法センターはかつて『加藤家』と称される地主として栄え、主屋、長屋門、茶室など日本建築の趣を存分に残す『国登録有形文化財 旧加藤家住宅』に設けられています。懐かしい生活用具などを使い、昔経験したことを楽しみながら皆で語り合うことで種に認知症の方々の脳を活性化させ心を元気にする活動をしています。私たちに体験として出されたブリキのお弁当箱に幼い頃の多く思い出がよみがえり『麦飯に梅干しだけのお弁当でしたがこんなに大きくなりました』とAさん。『毎日、油揚げに醤油をかけただけのおかずがとてもおいしかった』とBさん。そのお話しの楽しさに思わず身のり出してしまいました。昔のことを思い、語り合うことで脳の活性化を図ると経験しました。

